

第2編 設備別編

第1章 水門設備

第1節 直接測定による出来形管理

1. 河川・水路用水門設備

2. ダム用水門設備

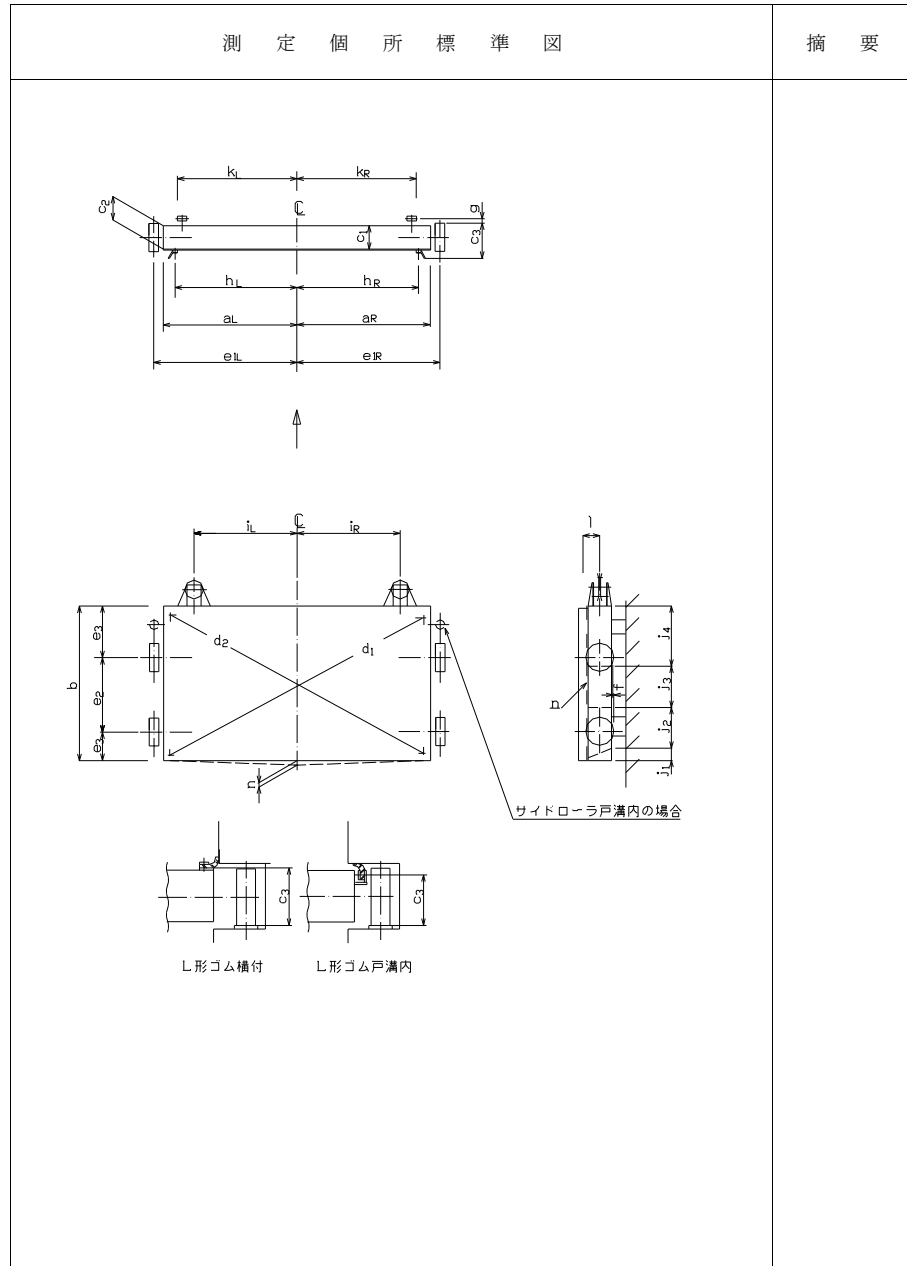
第2節 品質管理

第1節 直接測定による出来形管理

1. 河川・水路用水門設備

(1) 三方水密ローラゲート

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(製作)	1. 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。		
	A	扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁の高さ (c_1)	$H < 0.5$ ±2 $0.5 \leq H < 1.0$ ±3	桁1本につき2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	端桁の高さ (c_2)	$1.0 \leq H$ ±4	左右各2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	水密ゴム受座面から主ローラ踏面までの距離 (c_3)	± 5	(L形ゴム横付タイプ) 左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
			+ 5, - 3	(L形ゴム戸溝内タイプ) 左右上・中・下3箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	A	基準点对角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
	A	主ローラの支間 (e_{1L}, e_{1R})	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ中心間距離 (e_2)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラから扉体下端までの距離 (e_3)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	主ローラ踏面からサイドローラまでの距離 (g)	± 5	上下左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	水密幅 (h_L, h_R)	+ 5, - 3	(L形ゴム横付タイプ) ゴム受座中心間距離を高さ2m毎に鋼製巻尺で測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
			± 5	(L形ゴム戸溝内タイプ) ゴム受座中心間距離を高さ2m毎に鋼製巻尺で測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	B	吊金物(シーブ)中心間距離 (i_L, i_R)	± 5	1箇所を鋼製巻尺で測定する。
A	主桁間隔 (j)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
B	サイドローラ踏面間距離 (k_L, k_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
B	吊金物(シーブ)中心とスキムプレート間の距離 (1)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	



工 種	分 類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方ローラゲート(製作)	1. 扉体	A 底部の曲がり (m)	± 3	レベル、金属製直尺等で測定する。
		A 扉体の平面度 (n)	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形水門：扉体面積10㎡未満 中形水門：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門：扉体面積50㎡以上

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

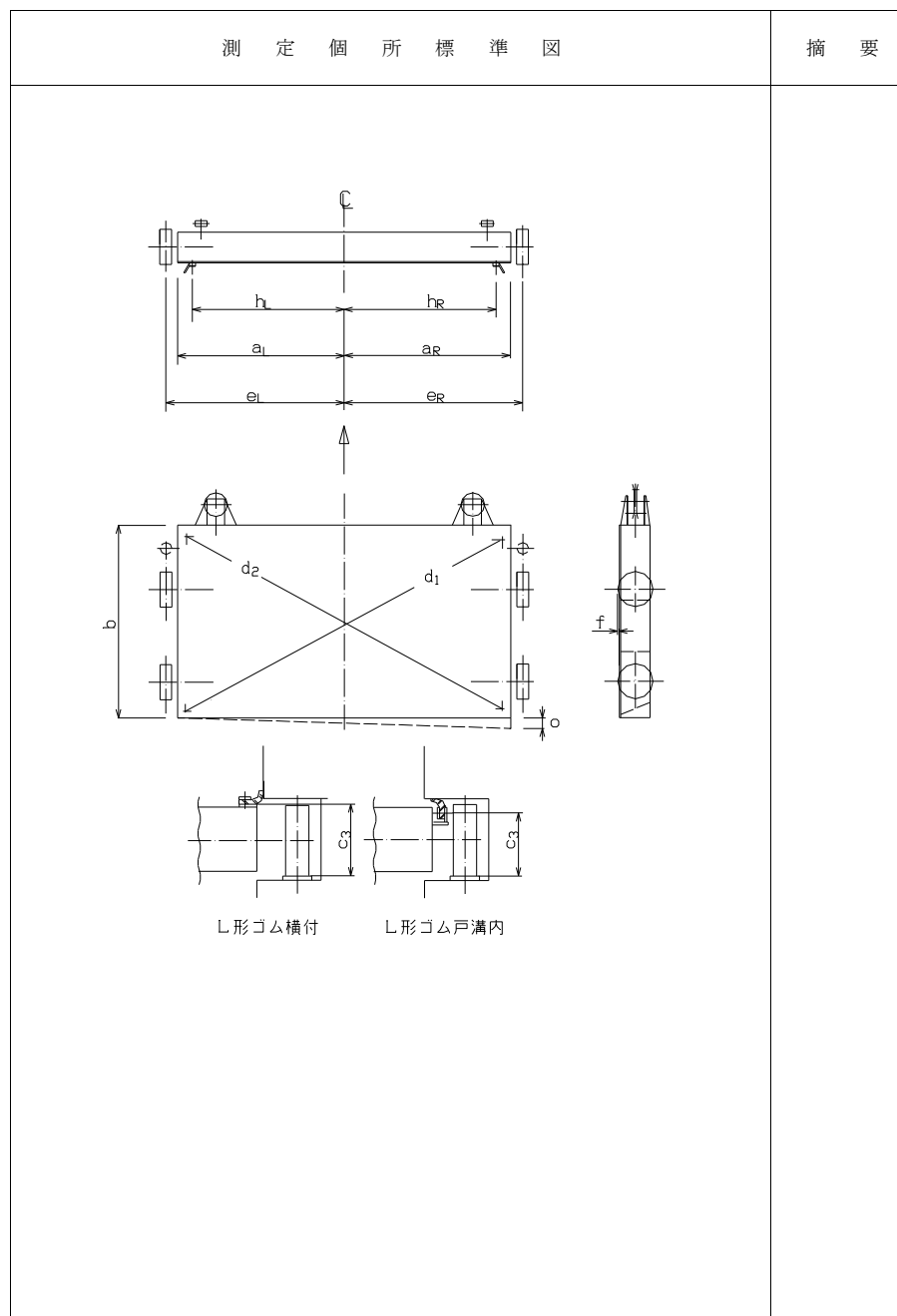
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート (製作)	2. 戸当り	原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。			
	A	純径間 (a_L, a_R)	+3, -5	(L形ゴム横付タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
			±5	(L形ゴム戸溝内タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板 中心間距離 (b_L, b_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	サイドローラ踏 面間距離 (c_L, c_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	主ローラ踏面と フロントローラ 踏面間距離 (d)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	側部戸当りと底 部戸当りとの関 係位置 (e)	±3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	戸当り高さ (f)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板 の厚さ (g)	+5, -0	機械加工を行う場合	上下各1箇所を ノギスで測定す る。
			JISによる	機械加工を行わない場合	
	A	主ローラレール 桁高さ (h)	$H < 0.5$ ±2 $0.5 \leq H < 1.0$ ±3 $1.0 \leq H$ ±4	上下中央各1箇所を金属製直 尺で測定する。	
	A	基準点間の対角 長の差 (i)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($i = i_1 - i_2 $)	
	A	底部戸当り表面 の平面度 (j)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。	
	A	底部戸当り表面 の真直度 (k)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板 の真直度 (1)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定 する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A	主ローラ踏面板 の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A	側部水密面の真 直度 (n)	3	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定 する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)	
	A	側部水密面の平 面度 (o)	2/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。	
	B	サイドローラ踏 面の真直度 (p)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定 する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)	

測定箇所標準図	摘要

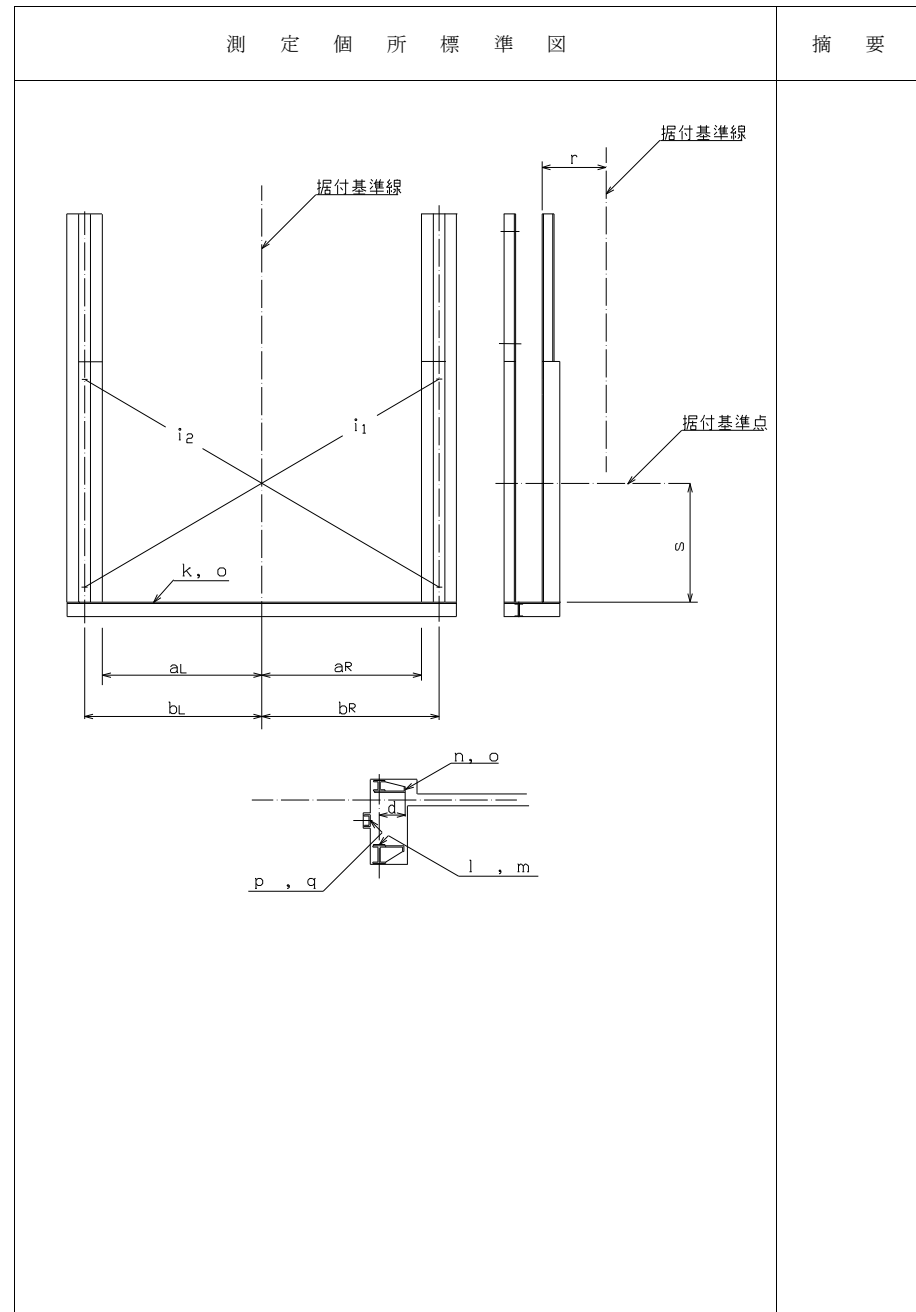
工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート (製作)	2. 戸当り	B サイドローラ 踏面の平面度 (q)	2(3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
	3. 開閉装置			

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(据付)	1. 扉体	B	扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	扉体の全高 (b)	± 10	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	水密ゴム受座 面から主ロー ラ踏面までの 距離 (c_3)	± 5	(L形ゴム横付タイプ) 左右各 2 箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。	
			+ 5, - 3	(L形ゴム戸溝内タイプ) 左右各 3 箇所(上・中・下)をレベルと金属製直尺等で測定する。	
	A	基準点对角長 の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)	
	A	主ローラの支 間 (e_L, e_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面 の偏差 (f)	1	左右各 1 箇所をレベル、鋼製巻尺等で測定する。	
	B	水密幅 (h_L, h_R)	+ 5, - 3	(L形ゴム横付タイプ) ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で高さ 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)	
			± 5	(L形ゴム戸溝内タイプ) ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で高さ 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)	
	A	扉体の傾き (o)	± 5	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)	



工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(据付)	2. 戸当り	A 純径間 (a_L, a_R)	+3, -5	(L形ゴム横付タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
			±5	(L形ゴム戸溝内タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 主ローラ踏面板中心間距離 (b_L, b_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B 主ローラ踏面板とフロントローラ踏面板間距離 (d)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 基準点間の対角長の差 (i)	10	鋼製巻尺で1箇所を測定する。 ($i = i_1 - i_2 $)
		A 水密面の水平度 (k)	2	水平基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A 主ローラ踏面板の鉛直度 (l)	2 (4)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 主ローラ踏面板の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 水密面の鉛直度 (n)	2	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A 水密面の平面度 (o)	2/m	長さ1mの直定規から変位をすきまゲージで測定する。
		B サイドローラ踏面の鉛直度 (p)	6 (6)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B サイドローラ踏面の平面度 (q)	2 (3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B 据付基準線から主ローラ踏面板までの距離 (r)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B 底部戸当りの標高 (s)	±5	中央部をレベルで測定する。	
3. 開閉装置	(5) 開閉装置寸法による。			



(2) 四方水密ローラゲート

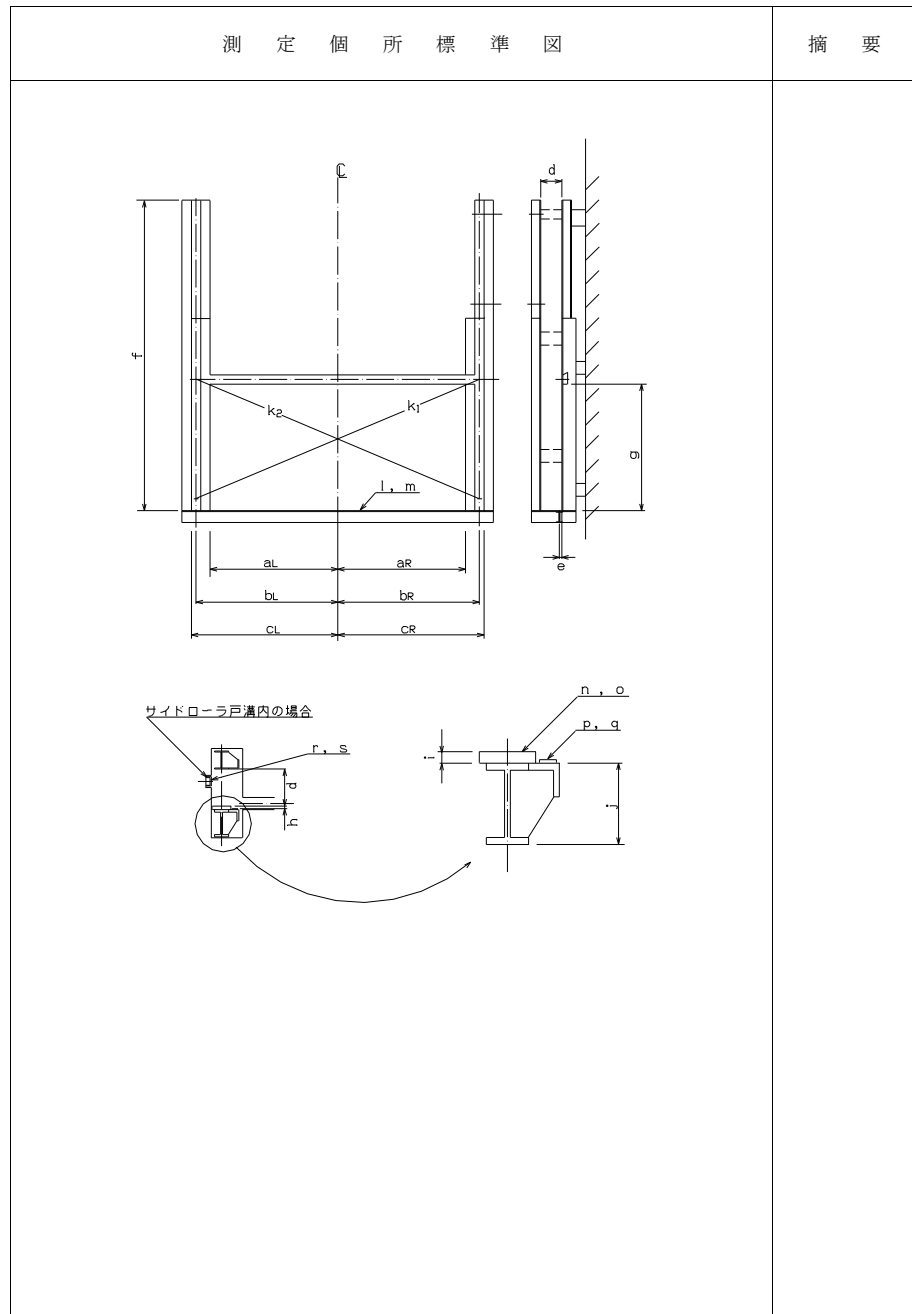
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート (製作)	1. 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。		
	A	扉体の全幅 (a _L , a _R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁の高さ (c ₁)	H<0.5 ±2 0.5≤H<1.0 ±3	桁1本につき2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	端桁の高さ (c ₂)	1.0≤H ±4	左右各2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	水密ゴム受座面から主ローラ踏面までの距離 (c ₃)	± 2	左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	A	基準点対角長の差 (d) (d = d ₁ - d ₂)	10	鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラの支間 (e _{1L} , e _{1R})	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ中心間距離 (e ₂)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラから扉体下端までの距離 (e ₃)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、鋼製巻尺等で測定する。
	B	主ローラ踏面からサイドローラまでの距離 (g)	± 5	上下左右各1箇所をレベル、金属製直尺で測定する。
	B	水密幅 (h _L , h _R)	± 5	(P形ゴム) ゴム受座中心間距離を高さ2m毎に鋼製巻尺で測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	B	吊金物 (シーブ) 中心又はラック吊心間距離 (i _L , i _R)	± 5	1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁間隔 (j)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	サイドローラ踏面間距離 (k _L , k _R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	吊金物 (シーブ) 中心又はラック吊心とスキンプレート間の距離 (l)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	側部水密高さ (m)	± 5	ゴム受座中心間距離を左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	底部の曲がり (n)	± 3	レベル、金属製直尺等測定する。

測定箇所標準図	摘要

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)	1. 扉体	扉体の平面度 (o)	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形水門：扉体面積10㎡未満 中形水門：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門：扉体面積50㎡以上
	A			

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

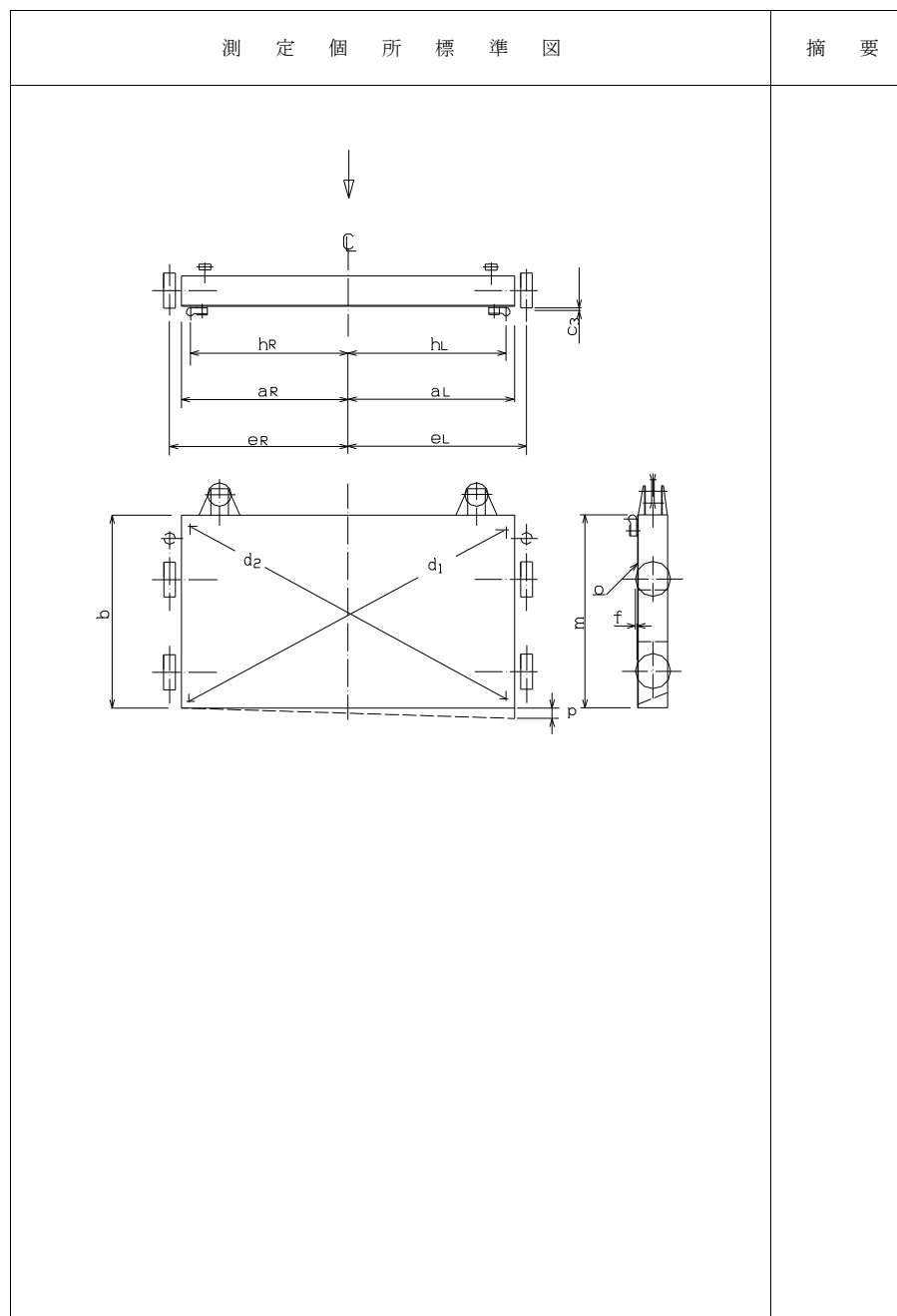
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート (製作)	2. 戸当り	原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。			
	A	純径間 (a_L, a_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板中心間距離 (b_L, b_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	サイドローラ踏面板間距離 (c_L, c_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	主ローラ踏面とフロントローラ踏面間距離 (d)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 (e)	±3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	戸当り高さ (f)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	呑口高さ (g)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板と水密面との距離 (h)	±2	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板の厚さ (i)	+5, -0 JISによる	機械加工を行う場合 機械加工を行わない場合	上下各1箇所をノギスで測定する。
	A	主ローラレール桁高さ (j)	H<0.5 ±2 0.5≤H<1.0 ±3 1.0≤H ±4	上下中央各1箇所を金属製直尺で測定する。	H: 腹板高(m)
	A	基準点間の対角長の差 (k)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($k = k_1 - k_2 $)	
	A	底部戸当り表面の平面度 (l)	1/m	長さ1mの直定規からの変位すきまゲージで測定する。	
	A	底部戸当り表面の真直度 (m)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板の真直度 (n)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A	主ローラ踏面板の平面度 (o)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A	水密面の真直度 (p)	2	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
	A	水密面の平面度 (q)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。	



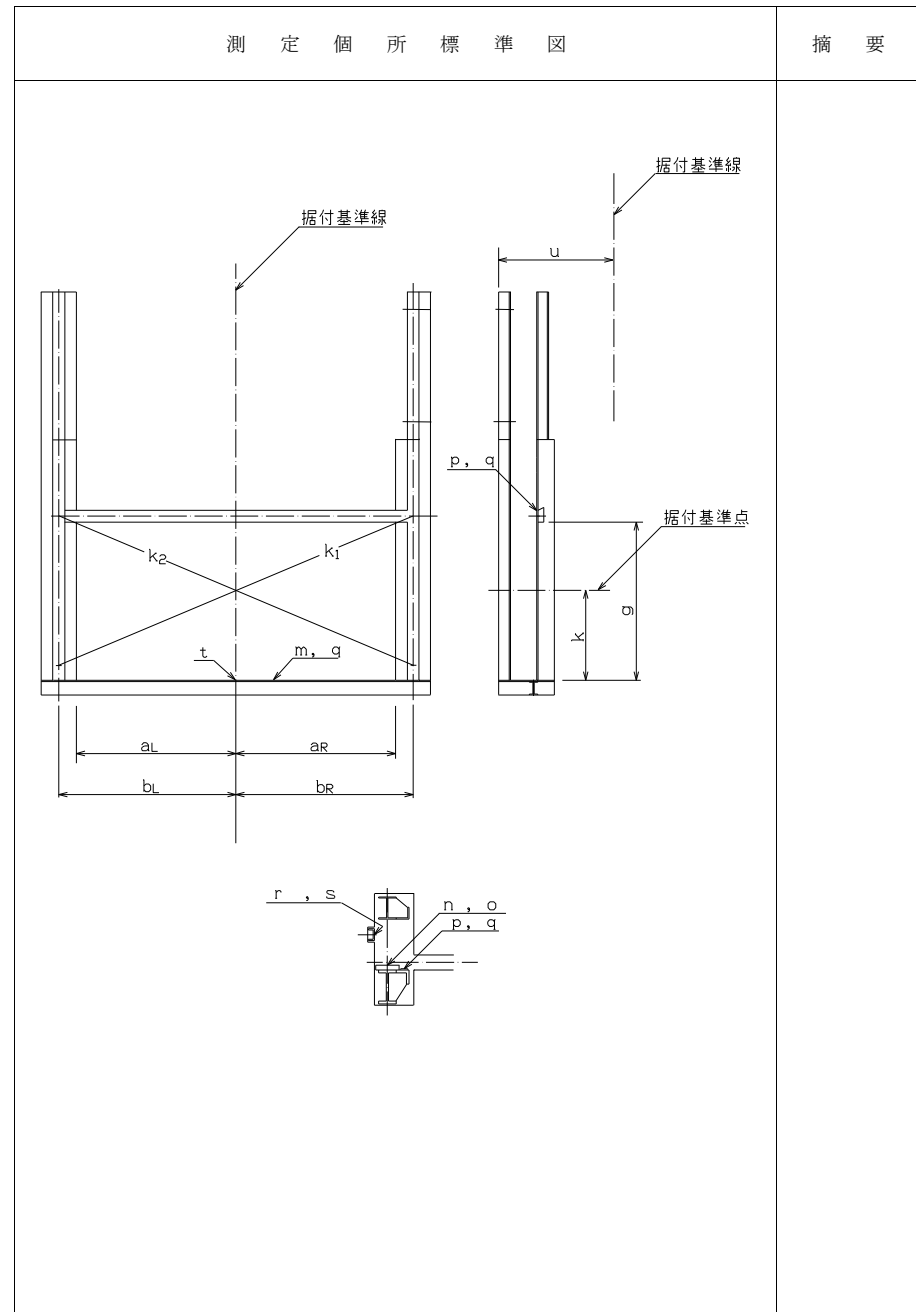
工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)	2. 戸当り	B	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		B	2(3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
	3. 開閉装置	(5)開閉装置寸法による。		

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート (据付)	1. 扉体	B 扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B 扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A 水密ゴム受座 面から主ロー ラ踏面までの 距離 (c_s)	± 2	左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。	
	A 基準点对角長 の差 (d)	10	1箇所を鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)	
	A 主ローラの支 間 (e_L, e_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A 主ローラ踏面 の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。	
	B 水密幅 (h_L, h_R)	± 5	ゴム受座中心間距離を長さ2m毎に鋼製巻尺で測定する。(2m以下の場合には上下各1箇所測定する。)	
	B 側部水密高さ (m)	± 5	ゴム受座中心間距離を左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A 扉体の平面度 (o)	小形 3 中形 5 大形 7	(現場溶接がある場合) 金属製直尺で測定 d の対角基準点4点とその交点の計5点を測定する。 小形水門：扉体面積10㎡未満 中形水門：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門：扉体面積50㎡以上	
	A 扉体の傾き (p)	± 5	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)	



工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(掘付)	2. 戸当り	A	純径間 (a_L, a_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面板中心間距離 (b_L, b_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	呑口高さ(g)	± 5	左右岸及び中央部を鋼製巻尺で測定する。
		A	基準点对角線長の差(k)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($k = k_1 - k_2 $)
		A	水密面の水平度(m)	2	水平基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A	主ローラ踏面板表面の鉛直度(n)	2(4)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	主ローラ踏面板表面の平面度(o)	1(2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	水密面の鉛直度(p)	2	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A	水密面の平面度(q)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
		B	サイドローラ踏面の鉛直度(r)	6(6)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B	サイドローラ踏面の平面度(s)	2(3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B	底部戸当りの標高(t)	± 5	中央部をレベルで測定する。
	B	掘付基準線から主ローラ踏面板までの距離(u)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
3. 開閉装置	(5) 開閉装置寸法による。				



(3) シェル構造ローラゲート

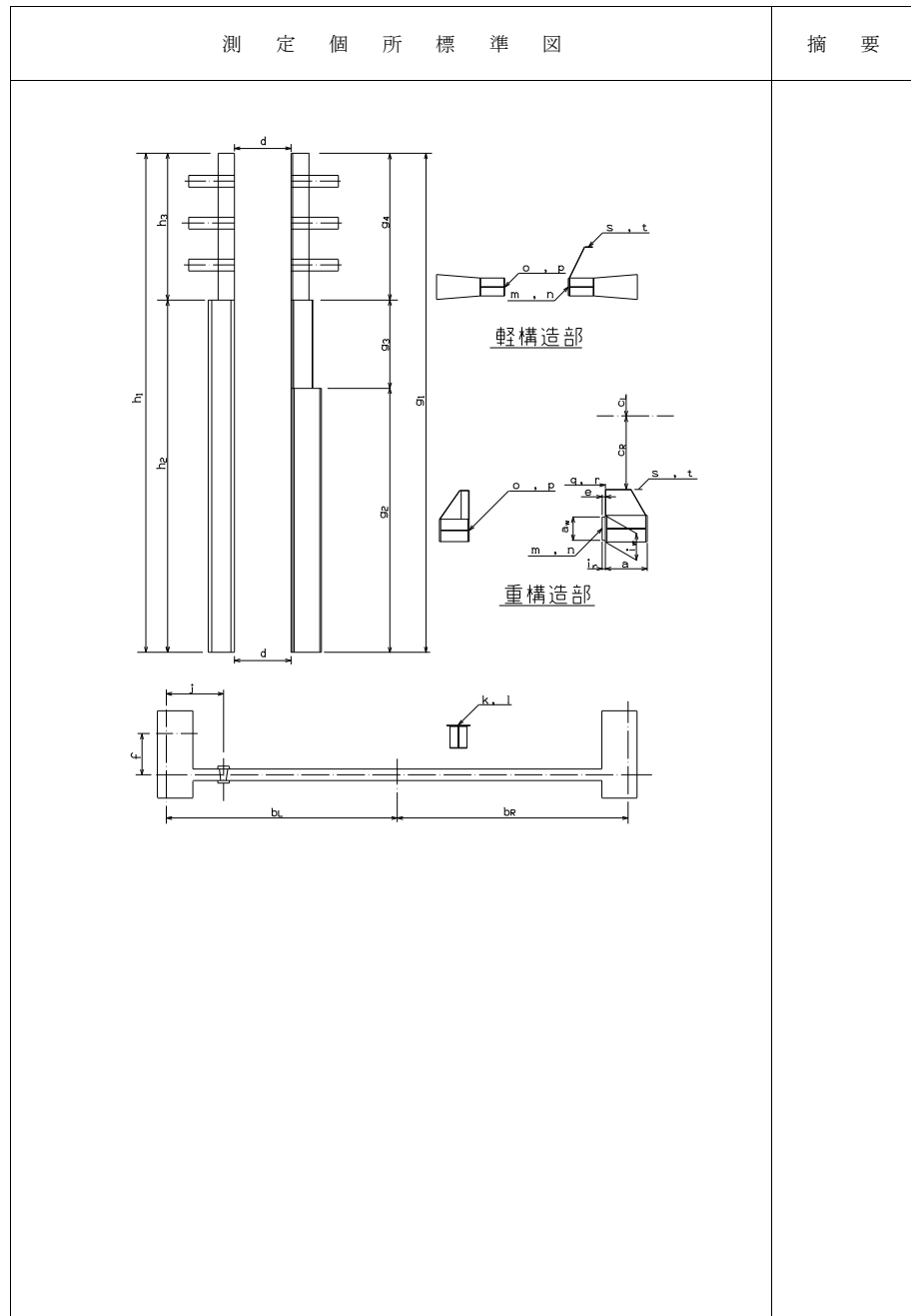
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準		
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート(製作)	1. 扉体	A	扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	扉体の全高 (b)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	扉体の厚さ (c_1)	$+10, -3$		中央、左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	水密ゴム受座から主ローラ踏面までの距離 (c_2)	$+5, -3$		各ローラ1箇所を金属製直尺で測定する。
		A	主ローラの支間距離 (d_L, d_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ中心間距離 (e_1)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラから扉体下端までの距離 (e_2)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面の偏差 (f)	1		各ローラ1箇所を金属製直尺で測定する。
		B	主ローラ踏面からサイドローラまでの距離 (g)	± 5		上下左右各1箇所を金属製直尺で測定する。
		A	主ローラ中心からスキンプレートまでの距離 (h)	± 5		上下左右各1箇所を金属製直尺で測定する。
		B	水密幅 (i_L, i_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	鋼製巻尺で高さ2m毎に測定する。 (2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		B	吊金物(シーブ)中心間距離 (j_L, j_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	吊金物(シーブ)中心とスキンプレート間の距離 (k)	± 3		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	底部の曲がり (l)	± 5		レベルで5m毎に測定する。
		B	スポイラ間隔 (m)	± 10		各々鋼製巻尺で測定する。
		B	休止フック間隔 (n_L, n_R)	± 5		1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	ダイヤフラム間隔 (o)	± 10		各1箇所を鋼製巻尺で測定する。

測定箇所標準図	摘要

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート(製作)	1. 扉体	A 水平桁の高さ (P_1) 端縦桁の高さ (P_2)	$H < 0.5$ ± 2	鋼製巻尺で数箇所抜き取りして測定する。	H : 腹板高(m)
			$0.5 \leq H < 1.0$ ± 3 $1.0 \leq H$ ± 4		
	A	底面板の傾斜角度 (q)	$+0.3^\circ$, 0°	2箇所を角度ゲージで測定する。	
	A	ゲートリップの長さ (r)	± 2	2箇所を金属製直尺で測定する。	
	A	底面板と背面板の交点部の曲率半径 (s)	± 10	2箇所を曲げ型ゲージで測定する。	
	A	頂板の傾斜角度 (t)	$+0.3^\circ$, 0°	2箇所を角度ゲージで測定する。	
	A	頂板とスキンプレートの交点部の曲率半径 (u)	± 10	2箇所を曲げ型ゲージで測定する。	
	A	円弧形状頂板の円弧半径 (v)	± 10	3箇所を曲げ型ゲージで測定する。	
	A	起伏部側部と下段扉整流板の間隔 (D)	± 3	(2段扉の場合) 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	起伏扉吊金物(シーブ)中心間隔 (E_L , E_R)	± 5	(2段扉の場合) 1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	起伏部扉体全幅 (F_L , F_R)	± 5	$a \leq 20m$	(2段扉の場合) 1箇所を鋼製巻尺で測定する。
			± 8	$a > 20m$	
	A	起伏部扉体高さ (G)	± 5	(2段扉の場合) 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	起伏部越流端の真直度 (H)	10	(2段扉の場合) レベルで2m毎に測定する。	
	A	起伏部の下段扉側水密部の真直度 (I)	4	(2段扉の場合) レベルで2m毎に測定する。	
	A	起伏部ヒンジ軸の真直度 (J)	4	(2段扉の場合) レベルで軸毎に測定する。	
	A	スライド式2段扉の扉間水密部の平面度 (K)	3	(2段扉の場合) 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。	

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準			
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート(製作)	2. 戸当り	A	主ローラレール桁高さ (a) H<0.5 ±2 0.5≤H<1.0 ±3 1.0≤H ±4	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。 H: 腹板高(m)			
		A	主ローラレール踏面板の幅 (a _w) B<0.5 ±2 0.5≤B<1.0 ±3 1.0≤B ±4	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。 B: フランジ幅(m)			
		A	主ローラレール踏面中心間距離 (b _L , b _R)	±5 ±8	a ≤ 20m a > 20m	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	サイドローラレール間の距離 (c _L , c _R)	±5 ±8	a ≤ 20m a > 20m	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	戸溝の幅 (d)	±3	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		A	主ローラレール踏面と水密板面との距離 (e)	+3, -5	上下各1箇所をノギスで測定する。		
		B	底部戸当りの中心と主ローラレール踏面の距離 (f)	±3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		B	水圧側戸当り高さ	全長 (g ₁)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B		重構造部 (g ₂)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B		軽構造部 (g ₃)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B		取外し部 (g ₄)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	非水圧側戸当り高さ	全長 (h ₁)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B		重構造部 (h ₂)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B		取外し部 (h ₃)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	主ローラ踏面板の厚さ (i)	+5, 0	上下各1箇所をノギスで測定する。		
		B	主ローラ踏面板の幅 (i _w)	B<0.5 ±2 0.5≤B<1.0 ±3 1.0≤B ±4	上下各1箇所を金属製直尺で測定する。 B: フランジ幅(m)		
		B	伸縮継手の位置 (j)	±10	鋼製巻尺で測定する。		
		A	底部戸当りの真直度 (k)	4	水平基準線からの変位をレベル、金属製直尺で測定する。		
		A	底部戸当りの平面度 (l)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。		



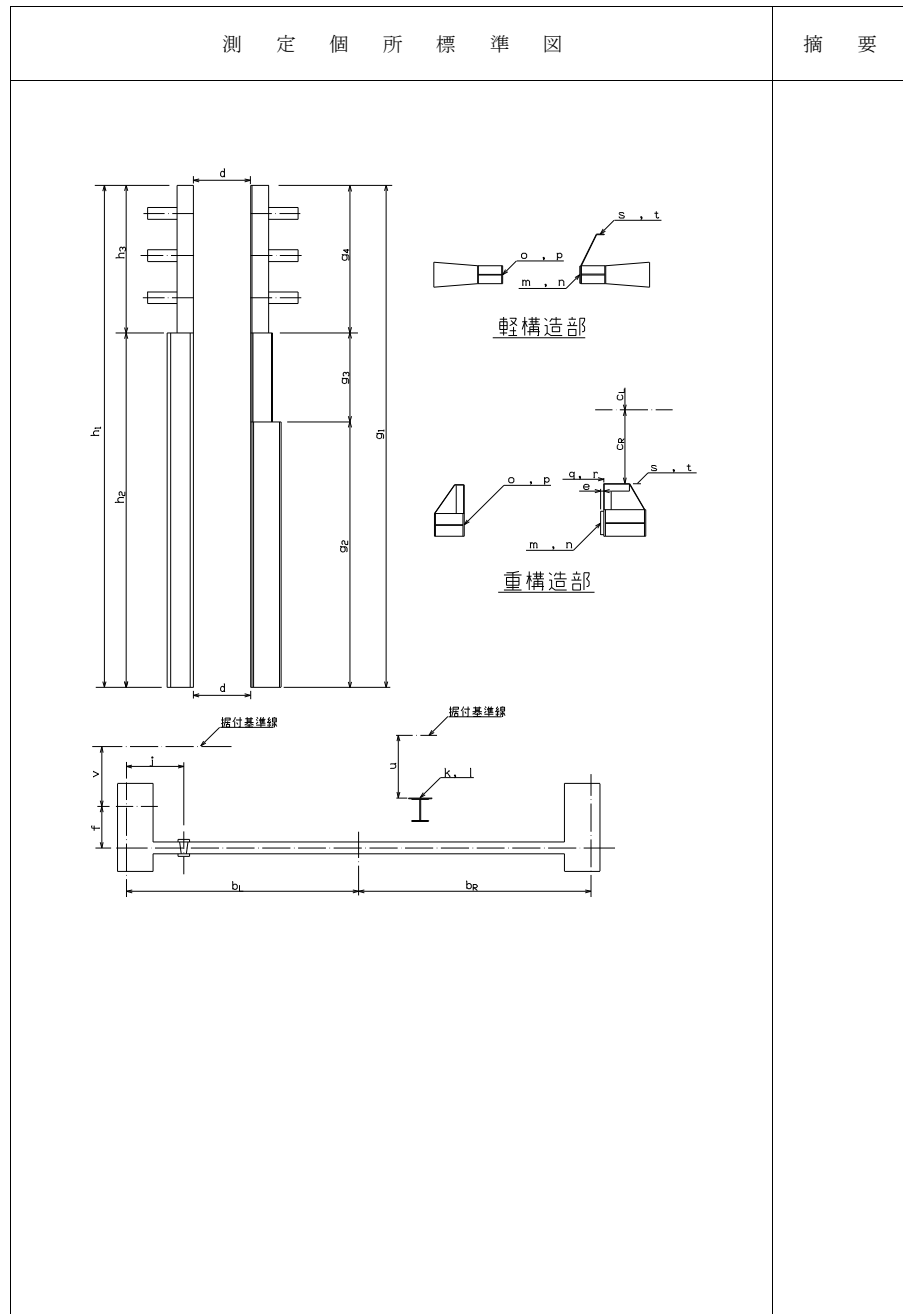
工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート(製作)	2. 戸当り	A 水圧側主ローラレール踏面板の真直度 (m)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2 m毎に測定する。(2 m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
	A 水圧側主ローラレール踏面板の平面度 (n)	1 (2)/m	長さ1 mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A 非水圧側主ローラレール踏面板の真直度 (o)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2 m毎に測定する。(2 m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
	B 非水圧側主ローラレール踏面板の平面度 (p)	2 (3)/m	長さ1 mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A 水密面の真直度 (q)	2	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2 m毎に測定する。(2 m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
	A 水密面の平面度 (r)	2/m	長さ1 mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。	
	B サイドローラレール踏面板の真直度 (s)	6 (6)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2 m毎に測定する。(2 m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
	B サイドローラレール踏面板の平面度 (t)	2 (3)/m	長さ1 mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
3. 開閉装置	(5)	開閉装置寸法による。		

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート(据付)	1. 扉体	B	扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	扉体の全高 (b)	± 5		左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	水密ゴム受座から主ローラ踏面までの距離 (c_2)	$+5, -3$		各ローラ 1 箇所を金属製直尺で測定する。
		A	主ローラの支間距離 (d_L, d_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面の偏差 (f)	1		振り下げ、トランシット又は、レベルで測定する。
		B	水密幅 (i_L, i_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で長さ 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		B	吊金物(シーブ)中心間距離 (j_L, j_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	底部の曲がり (l)	± 5		レベルで 5 m 毎に測定する。
		B	温度差・扉体自重による鉛直方向のたわみ (x)	-		中央 1 箇所をレベルで測定する。
		A	起伏部側部と下段扉整流板の間隔 (D)	± 3		(2 段扉の場合) 左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	起伏扉吊金物(シーブ)中心間隔 (E_L, E_R)	± 5		(2 段扉の場合) 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	起伏部扉体全幅 (F_L, F_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	(2 段扉の場合) 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	起伏部越流端の真直度 (H)	10		(2 段扉の場合) レベルで 2 m 毎に測定する。
		A	起伏部の下段扉側水密部の真直度 (I)	4		(2 段扉の場合) レベルで 2 m 毎に測定する。
		A	起伏部ヒンジ軸の真直度 (J)	4		(2 段扉の場合) レベルで 2 m 毎に測定する。
	A	スライド式 2 段扉の扉間水密部の平面度 (K)	3		(2 段扉の場合) 長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。	

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準		
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート (据付)	2. 戸当り	A	主ローラレール踏面中心間距離 (b_L, b_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	サイドローラレール間の距離 (c_L, c_R)	± 5 ± 8	$a \leq 20m$ $a > 20m$	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	戸溝の幅 (d)	± 3		上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラレール踏面と水密板面との距離 (e)	$+3, -5$		上下各1箇所をノギスで測定する。
		B	底部戸当りの中心と主ローラレール踏面の距離 (f)	± 3		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	全長 (g_1)	± 10		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	水圧側戸当り高さ 重構造部 (g_2)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	軽構造部 (g_3)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	取外し部 (g_4)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	非水圧側戸当り高さ 全長 (h_1)	± 10		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	重構造部 (h_2)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	取外し部 (h_3)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	伸縮継手の位置 (j)	± 10		鋼製巻尺で測定する。
		A	底部戸当りの水平度 (k)	4		レベルで測定する。
		B	底部戸当りの平面度 (l)	1/m		長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
		A	水圧側主ローラレール踏面板の鉛直度 (m)	2 (3)		鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	水圧側主ローラレール踏面板の平面度 (n)	1 (2)/m		長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	非水圧側主ローラレール踏面板の鉛直度 (o)	2 (3)		鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。

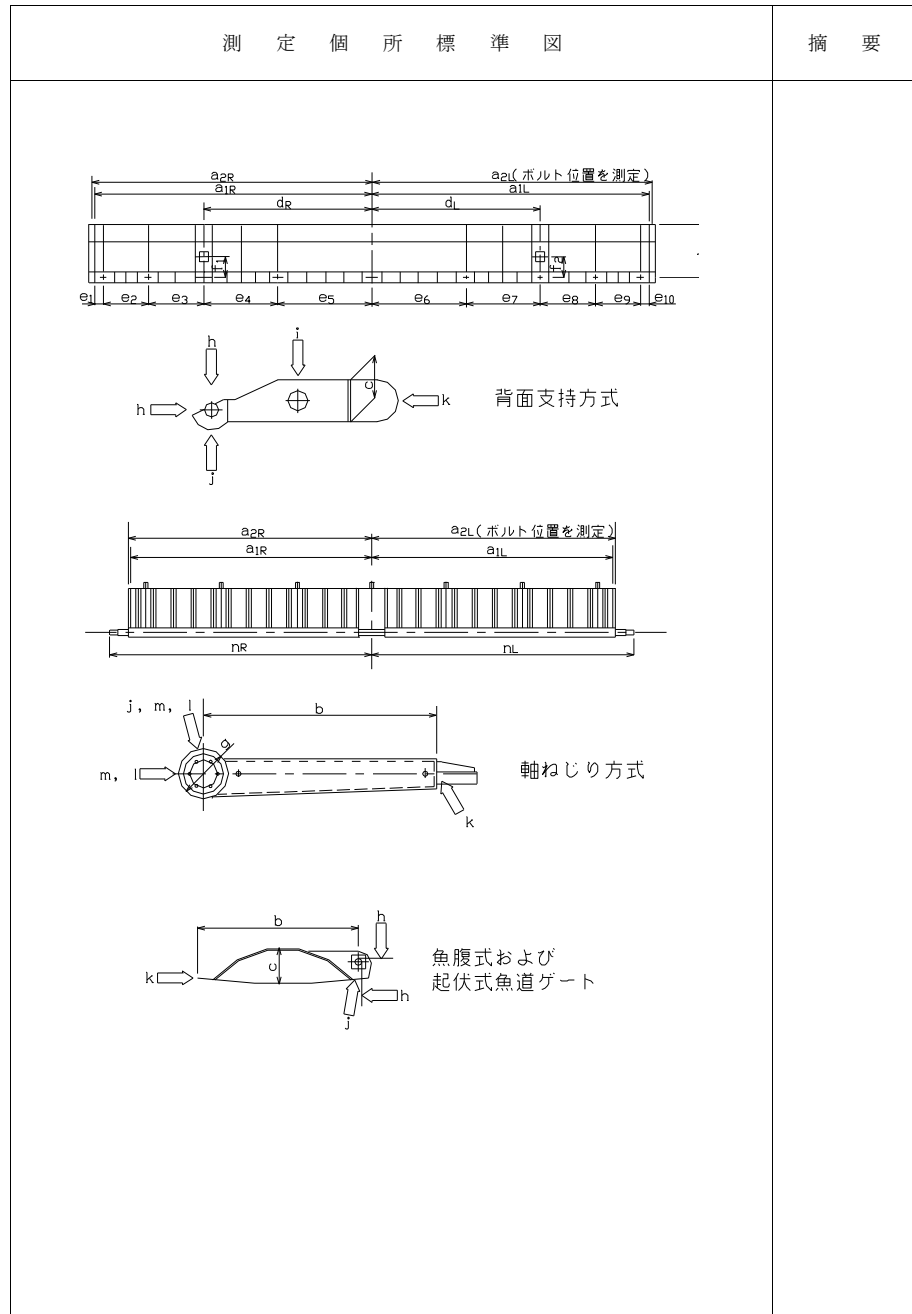


工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート (掘付)	2. 戸当り	B	非水圧側主ローラレール踏面板の平面度 (p)	2(3)/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	水密面の鉛直度 (q)	2 鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A	水密面の平面度 (r)	1/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
		B	サイドローラレール踏面板の鉛直度 (s)	6(6) 鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B	サイドローラレール踏面板の平面度 (t)	2(3)/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B	底部戸当りの標高 (u)	±5 基準点から高低差をレベルで測定する。
		B	掘付基準線から主ローラ踏面板までの距離 (v)	±5 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
3. 開閉装置		(5)開閉装置寸法による。		

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

(4) 起伏ゲート

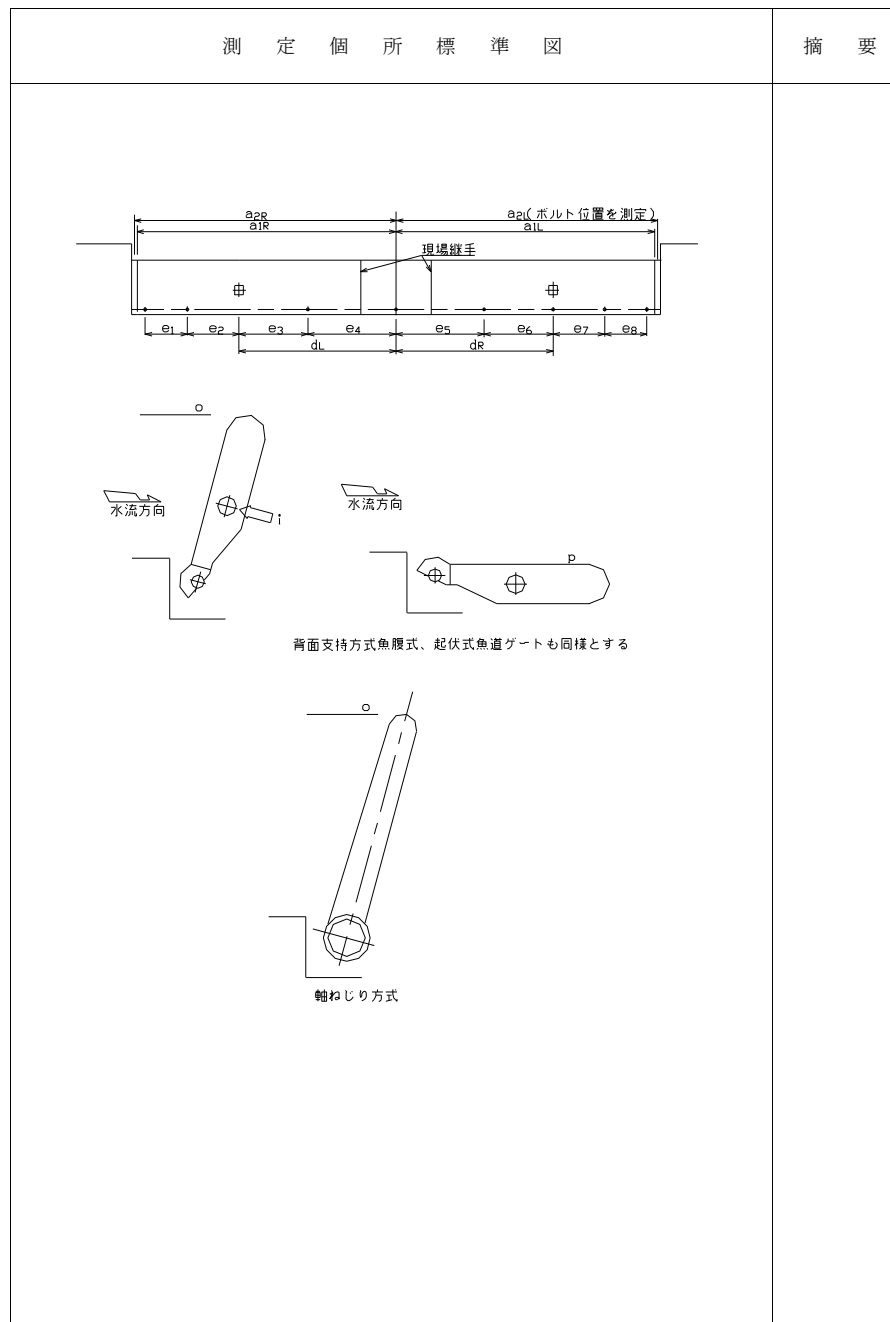
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (4) 起伏ゲート (製作)	1. 扉体	A	扉体幅 (a_{1L} , a_{1R})	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	側部水密ゴム 間隔 (a_{2L} , a_{2R})	± 3	上下各 1 箇所を鋼製巻尺・金属製直尺で測定する。
		A	扉体高さ (b)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	扉体側部の幅 (厚み) (c)	$B < 0.5$ ±2 $0.5 \leq B < 1.0$ ±3 $1.0 \leq B$ ±4	左右各 1 箇所を鋼製巻尺・金属製直尺で測定する。(背面支持方式、魚腹式、魚道ゲート) B : フランジ幅 (m)
		B	ローラ間隔 (d_L , d_R)	± 3	各々鋼製巻尺で測定する。(背面支持方式)
		B	ヒンジ軸間隔 (e)	± 3	鋼製巻尺で測定する。
		B	ヒンジ軸・ローラ軸間隔 (f)	± 2	鋼製巻尺で測定する。(背面支持方式)
		A	トルク軸径 (g)	JIS による。	ノギス、鋼製巻尺で測定する。(トルク軸式) (JIS B 0401)
		A	ヒンジ軸真直度 (h)	4	レベル、ピアノ線等で 2m 毎に測定する。(2m 以下の場合は左右各 1 箇所測定する。)(背面支持方式、魚腹式、魚道ゲート)
		A	ローラ軸真直度 (i)	4	レベルで 2m 毎に測定する。(2m 以下の場合は左右各 1 箇所測定する。)(背面支持方式)
		B	底部ゴム当たり真直度 (j)	8	レベルで 2m 毎に測定する。(2m 以下の場合は左右各 1 箇所測定する。)
		B	越流部真直度 (k)	10	レベル、ピアノ線、金属製直尺等で 2m 毎に測定する。(2m 以下の場合は左右各 1 箇所測定する。)
		A	駆動軸真直度 (l)	2	レベル、ピアノ線、金属製直尺等で 2m 毎に測定する。2m 以下の場合は左右各 1 箇所測定する。(トルク軸式、魚腹式、魚道ゲート)
		B	トルク軸真直度 (m)	8	レベル、ピアノ線、金属製直尺等で 2m 毎に測定する。(2m 以下の場合は左右各 1 箇所測定する。)(トルク軸式)
A	駆動軸全長 (n_L , n_R)	± 5	鋼製巻尺で測定する。(トルク軸式、魚腹式、魚道ゲート)		



工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (4) 起伏ゲート(製作)	2. 戸当り	B	側部戸当り半径 (a)	± 5	左右 2 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	側部戸当り弦長 (b)	± 10	鋼製巻尺で測定する。
		A	側部戸当り平面度 (c)	2/m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
		B	底部戸当り全長 (d)	± 5	鋼製巻尺で測定する。
		A	底部戸当り真直度 (e)	4	レベル、ピアノ線、金属製直尺等で 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
	3. 開閉装置	A	油圧シリンダ全長 (a)	JIS による。	鋼製巻尺で測定する。 (背面支持方式) (JIS B 8367)
		A	設置角度 (b)	2%	角度ゲージで測定する。(背面支持方式)
		B	端部レバー取付位置 (c ₁ , c ₂)	± 2	レベル・金属製直尺で測定する。 (トルク軸式、魚腹式、魚道ゲート)

測 定 個 所 標 準 図	摘 要
<p>背面支持方式</p> <p>軸ねじり方式および魚腹式</p>	

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (4) 起伏ゲート(据付)	1. 扉体	B 扉体幅 (a_{1L} , a_{1R})	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A 側部水密ゴム 間隔 (a_{2L} , a_{2R})	± 3	上下各1箇所を鋼製巻尺・金属製直尺で測定する。	
	B ローラ間隔 (d_L , d_R)	± 3	鋼製巻尺で測定する。(背面支持方式)	
	B ヒンジ軸間隔 (e)	± 3	鋼製巻尺で測定する。	
	A ローラ軸真直度 (i)	4	(3個以上の場合) ピアノ線、金属製直尺等で測定する。(背面支持方式)	
	A 起立時天端標高 (o)	± 5	レベルで長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は左右各1箇所測定する。)	
	A 倒伏時天端標高 (p)	± 5	レベルで長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は左右各1箇所測定する。)	



工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (4) 起伏ゲート(据付)	2. 戸当り	A 側部戸当り平面度 (c)	2/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
		B 底部戸当り全長 (d)	±5	鋼製巻尺で測定する。
		B 底部戸当り水平度 (e)	1/2	レベル、ピアノ線、金属製直尺等で長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は左右各1箇所測定する。)
		A 側部戸当り鉛直度 (f)	4	下げ振り、金属製直尺で測定する。
		A 純径間 (g ₁ , g ₂)	±3	鋼製巻尺で測定する。
		B 底部戸当り標高 (h)	±5	レベル、金属製直尺で長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は左右各1箇所測定する。)
		A 側部戸当り対角長の差 (i)	7	上下流方向、鋼製巻尺で測定する。 ($i = i_1 - i_2 $)
		B 側部戸当り据付距離 (j)	±2	左右岸を鋼製巻尺で測定する。
		B 底部戸当り間隔 (k)	±5	鋼製巻尺で2m毎に測定する。(魚道ゲート)
	3. 固定部	A ヒンジ軸受通り (a)	±2	各軸受をトランシット、ピアノ線等で測定する。
A ヒンジ軸受標高 (b)		±2	各軸受をレベルで測定する。	
A ヒンジ軸受間隔 (c)		±2	鋼製巻尺で測定する。	

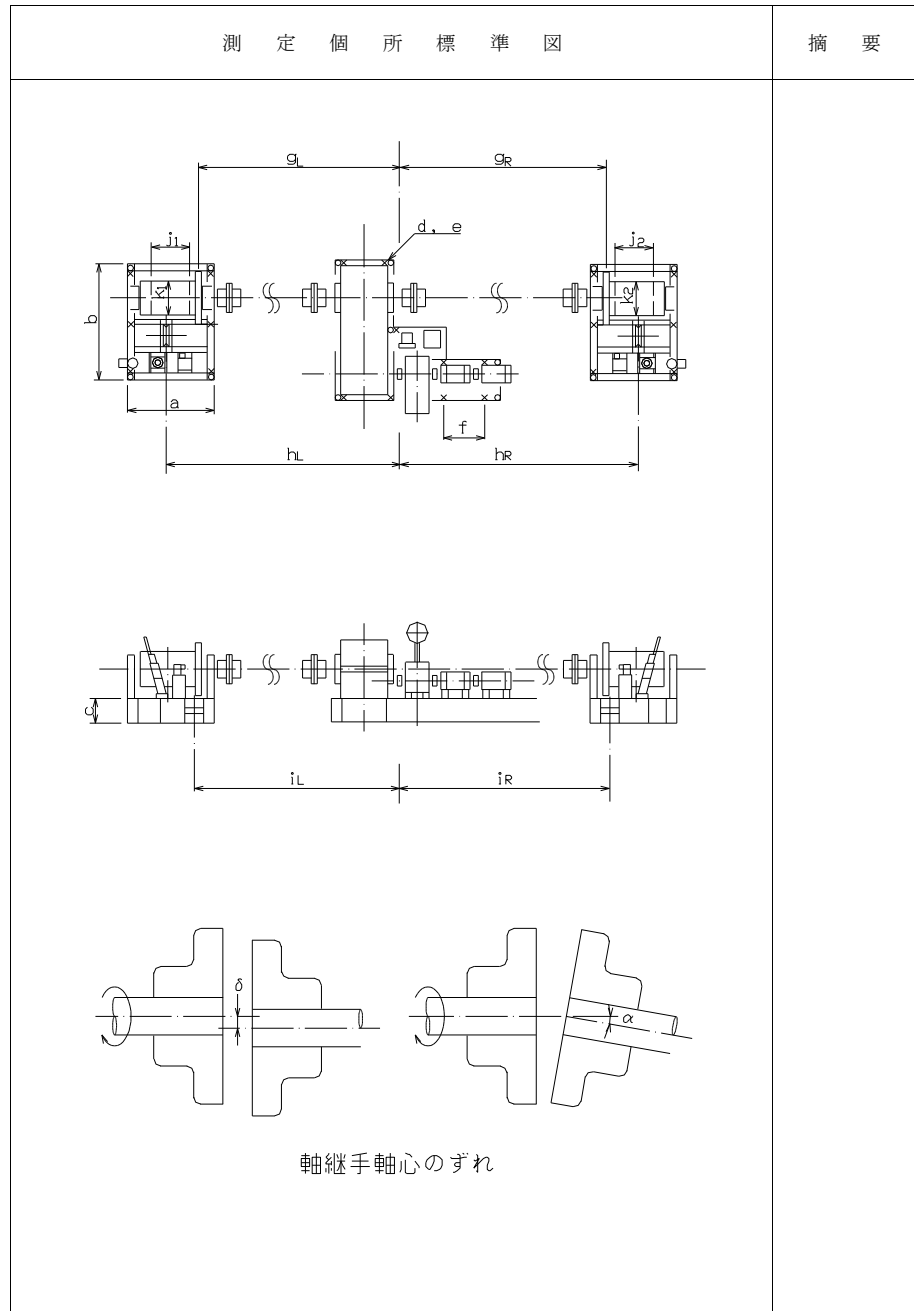
測 定 個 所 標 準 図	摘 要
<p>The diagrams illustrate measurement points for various gate components. The top diagram shows a plan view of a gate with three segments (1段ゲート, 2段ゲート, 3段ゲート) and labels for oil pressure rollers (油圧シリンダ), bearings (回転軸), and dimensions like K₁, K₂, and h. The middle diagram shows a side view of a gate with measurement points for bearing height (基準線), gate height (h), and gate length (d), with a note for '現場掘手' (field excavation). The bottom diagram shows a plan view of a gate with measurement points for diagonal length difference (i₁, i₂), gate length (G_L, G_R), and gate width (f), with a note for '中心線' (center line) and '水流方向' (water flow direction).</p>	
<p>The diagrams illustrate measurement points for hinge bearings and fishway gates. The top diagram shows a cross-section of a hinge bearing with measurement points for bearing height (基準線), bearing diameter (a), and bearing height (b), with a note for '軸ねり方式' (axle fitting method). The middle diagram shows a cross-section of a fishway gate with measurement points for bearing height (基準線), bearing diameter (a), and bearing height (b), with a note for '断面支持方式 懸架式魚道ゲート' (cross-section support method, suspended fishway gate). The bottom diagram shows a plan view of a fishway gate with measurement points for gate length (C₁, C₂, C₃, C₄) and gate width (1, 2, 3, 4, 5).</p>	

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (4) 起伏ゲート(据付)	4. 開閉装置	A 油圧シリンダ直角度 (a)	± 2	ゲート軸との直角度を鋼製巻尺により幾何学的に測定する。(背面支持方式)
		A 設置角度 (b)	2%	角度ゲージで測定する。(背面支持方式)
		B ローラ・シリンダ位置関係 (c)	± 2	金属製直尺で測定する。(背面支持方式)
		A 油圧シリンダ間隔 (d _L , d _R)	± 2	鋼製巻尺で測定する。(背面支持方式)
		B 油圧シリンダ設置標高 (e)	± 2	レベルで測定する。(トルク軸式、魚腹式、魚道ゲート)

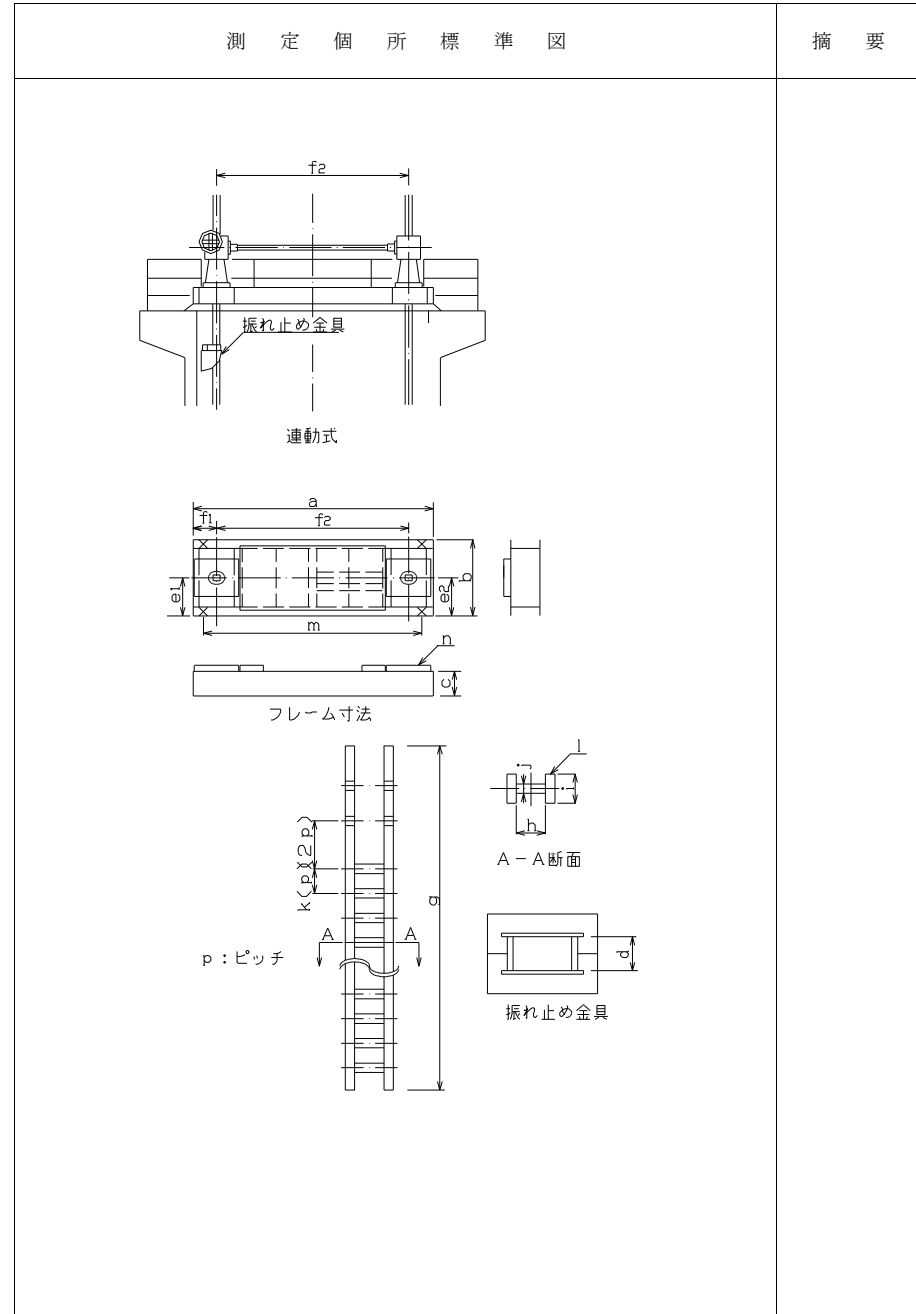
測 定 個 所 標 準 図	摘 要

(5) 開閉装置

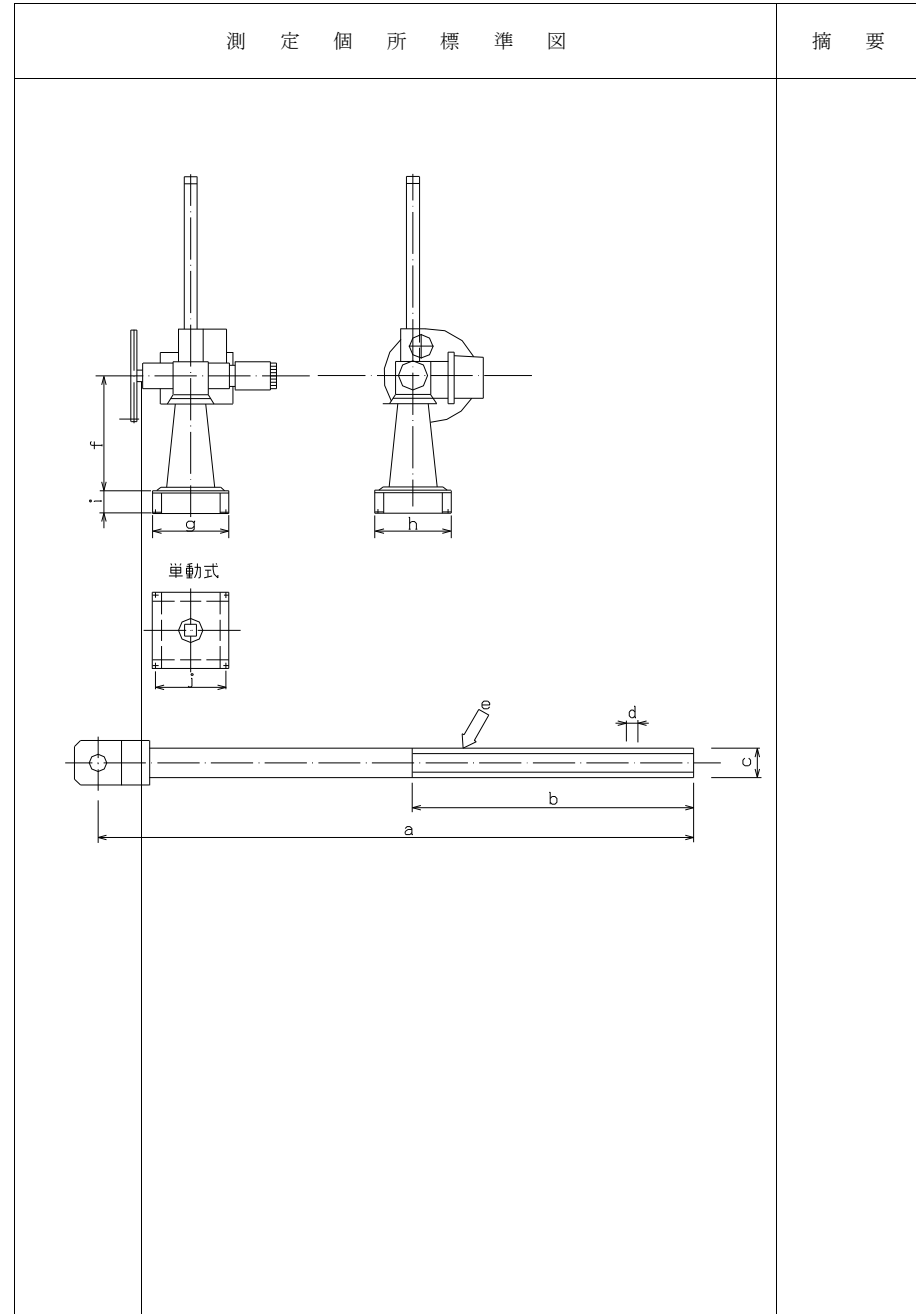
工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (5) 開閉装置 (製作)	1. ワイヤロープウィンチ式	B	長さ (a)	± 5 各フレーム左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	幅 (b)	± 5 各フレーム左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	フレーム	B	高さ (c)	H<0.5 ±2 0.5≤H<1.0 ±3 1.0≤H ±4	各フレーム四隅各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。 H : 腹板高(m)
		B	水平度 (d)	± 1	基準ゲージ面をレベルで確認する。 (分離されている一つの機械台の高さ)
		B	高低差 (e)	± 1	基準ゲージ面をレベルで確認する。 (各機械台の相対的な差)
		B	基礎ボルト穴間隔 (f)	± 3	据付基準点からの距離を鋼製巻尺で測定する。
		A	ドラムギア中心間距離 (g _L , g _R)	± 3	鋼製巻尺で測定する。
		A	シーブ中心間距離 (h _L , h _R)	± 3	鋼製巻尺で測定する。
	B	休止装置軸中心間距離 (i _L , i _R)	± 3	鋼製巻尺で測定する。	
	A	左右ドラムの直径差 (j _L , j _R)	0. 5	鋼製巻尺又は、ピアノ線で測定する。	
	A	ドラムの幅 (k _L , k _R)	± 5	鋼製巻尺で測定する。	
	A	歯車の歯幅	JIS B 0405 中級	ノギスで測定する。	
	A	軸	軸受内径	設計図面による	マイクロメータで測定する。
	A		軸受	設計図面による	マイクロメータで測定する。
	A	電動機軸と減速機軸の軸心のずれ (δ ₁)	使用軸継手の許容差	ダイヤルゲージで組立過程に測定する。	
	A	電動機軸と減速機軸の軸心のずれによる角度 (α ₁)	同 上	ダイヤルゲージで組立過程に測定する。	
	A	減速機軸とドラム軸の軸心のずれ (δ ₂)	0. 5	ダイヤルゲージで組立過程に測定する。	
	A	減速機軸とドラム軸の軸心のずれによる角度 (α ₂)	0. 5°	ダイヤルゲージで組立過程に測定する。	



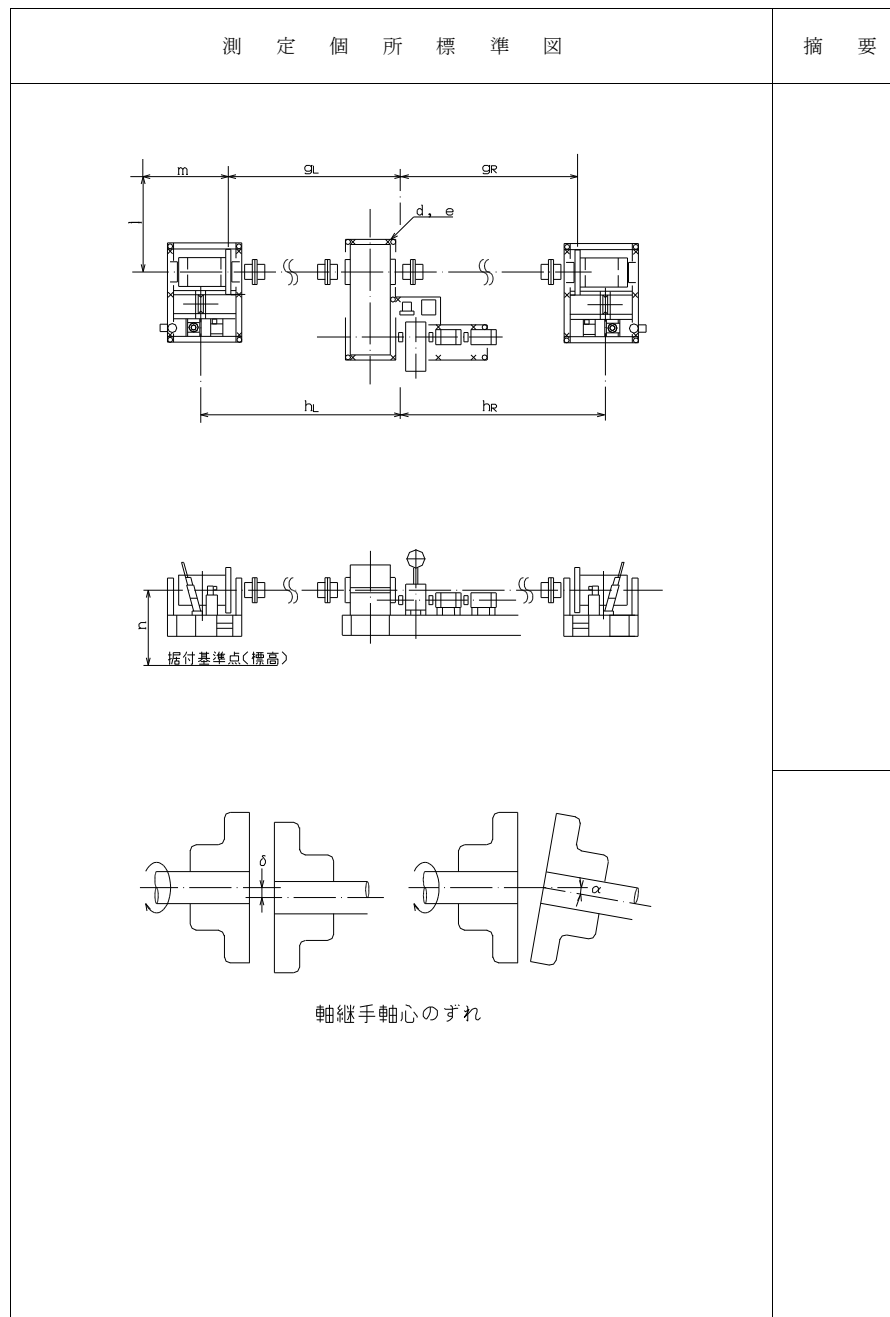
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (5) 開閉装置 (製作)	2. ラック式	B	長さ (a)	± 5 左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	幅 (b)	± 5 左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	高さ (桁高) (c)	H < 0.5 ± 2 0.5 ≤ H < 1.0 ± 3 1.0 ≤ H ± 4 四隅各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。 H : 腹板高 (m)
		B	振れ止め金具内寸法 (d)	+ 2, 0 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	吊り心間隔 (中心線のずれ) (e)	± 5 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	吊り心間隔 (f)	± 5 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	全長 (g)	+1 ピッチ, 0 1 本当たり 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	幅 (h)	± 2 両端、中央を鋼製巻尺で測定する。
		A	高さ (i)	± 2 ± 3 幅 25 以上 100 未満 両端、中央を鋼製巻尺で測定する。 幅 100 以上 150 未満
		A	ピン径 (j)	± 0. 5 (ピンラックの場合) 両端、中央 3 箇所をノギスで測定する。
		A	ピッチ (k)	± 0. 5 両端、中央 3 箇所をノギスで測定する。
		A	真直度 (l)	2 / m 3 / 全長 水系と金属製直尺 (1 m) で測定する。
		B	基礎ボルト穴間隔 (m)	± 3 鋼製巻尺で測定する。
		A	水平度 (n)	± 2 基準ゲージ面をレベルで測定する。



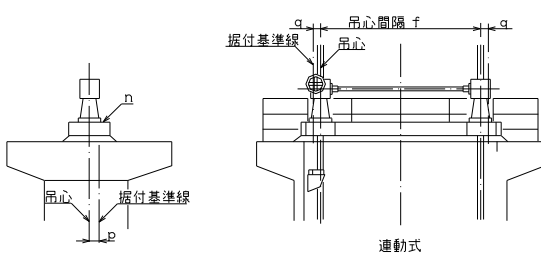
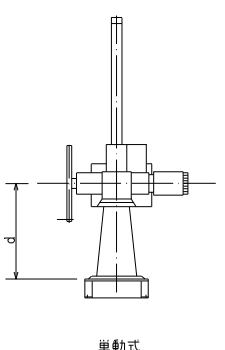
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (5) 開閉装置(製作)	3. スピンドル式	A	長さ(a)	±10	鋼製巻尺で測定する。
		A	有効ねじ長(b)	+10, 0	鋼製巻尺で測定する。
		A	径(c)	JIS B 0216	ノギスで測定する。
		A	ねじピッチ(d)	JIS B 0216	ノギスで測定する。
		A	真直度(e)	0.5/m	長さ1m毎に金属製直尺で測定する。
		A	ハンドル中心高(f)	±1	金属製直尺で測定する。
		B	機械台長(g)	±5	鋼製巻尺で測定する。
		B	機械台幅(h)	±5	鋼製巻尺で測定する。
		B	機械台厚さ(i)	H<0.5 ±2 0.5≦H<1.0 ±3 1.0≦H ±4	四隅各1箇所を鋼製巻尺で測定する。 H: 腹板高(m)
		B	基礎ボルト穴間隔(j)	±3	鋼製巻尺で測定する。



工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (5) 開閉装置(据付)	1. ワイヤロープウィンチ式	B	開閉装置フレームの水平度(d)	±1 四隅の基準ゲージ面をレベルで確認する。
		B	伝動軸で連結される開閉装置フレームの高低差(e)	±1 四隅の基準ゲージ面をレベルで確認する。
		B	ドラムギヤ中心間距離(g _L , g _R)	±3 鋼製巻尺で測定する。
		B	シーブ中心間距離(h _L , h _R)	±3 鋼製巻尺で測定する。
		B	据付基準線からの上下流方向のずれ(l)	±1 ドラム中心と据付基準線の距離を鋼製巻尺で測定する。
		B	据付基準線から左右方向のずれ(m)	±1 ドラムギヤ中心と据付基準線の距離を鋼製巻尺で測定する。
		B	据付基準点から標高のずれ(n)	±1 ドラム中心と据付基準点の高さをレベルで測定する。
		B	軸継手部の軸心のずれ(α, δ)	偏心0.5 偏角0.5° (発送時分割された場合のみ計測) ダイヤルゲージで確認する。



工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (5) 開閉装置(据付)	2. ラック式	A	吊心間隔(中心線のずれ)(f)	± 5	吊心間隔を鋼製巻尺で測定する。
		B	開閉装置フレームの水平度(n)	± 2	四隅の基準ゲージ面をレベル、水系にて測定する。
		B	据付基準線から上下流方向のずれ(p)	± 2	据付基準線から吊り心までの距離を金属製直尺で測定する。
		B	据付基準線から左右方向のずれ(q)	± 2	据付基準線から吊り心までの距離を金属製直尺で測定する。
	3. スピンドル式	B	ハンドル中心高(d)	± 1	鋼製巻尺で測定する。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要
 <p style="text-align: center;">連動式</p>	
 <p style="text-align: center;">単動式</p>	